

平成6年度  
帰国研修員フォローアップチーム  
報告書

(防災・救急分野4コース合同)

防災行政管理者セミナー  
救急救助技術  
消防行政管理者  
防災技術

平成7年3月

JICA LIBRARY



J 1135288 (7)

国際協力事業団  
東京国際研修センター

東国セ

JR

95-001

LIBRARY



平成 6 年度  
帰国研修員フォローアップチーム  
報告書

(防災・救急分野 4 コース合同)

防災行政管理者セミナー  
救 急 救 助 技 術  
消 防 行 政 管 理 者  
防 災 技 術

平成 7 年 3 月

国際協力事業団  
東京国際研修センター



1135288 [7]

## 序 文

国際協力事業団は、研修事業の効果促進のため、帰国研修員に対するアフターケア事業の一環としてフォローアップ調査団を派遣し、帰国研修員、研修員所属機関、各関係機関への訪問を通じ、研修効果の確認、研修の評価、各分野に関する技術指導及び各研修分野に関するニーズ調査を行っています。

本報告書は、当事業団が防災・救急関連機関の協力を得て実施している集団4コース「防災行政管理者セミナー」、「消防行政管理者」、「防災技術」及び「救急救助技術」のフォローアップとして、平成7年1月17日から1月28日まで、コロンビア、メキシコの2カ国に派遣された調査団の調査結果をまとめたものです。

本報告書により当該分野における各国の実情、帰国研修員の活動状況、彼等が抱えている諸問題及び研修にかかる要望事項等について、関係各位より深いご理解を頂き、同時に今後のよりよい研修コースの実施、運営の参考になれば幸甚と存じます。

なお、本件フォローアップ調査の実施にあたり、多大なご協力を賜わった、外務省、消防庁、国土庁及び現地において数々のご指導とご協力を賜わった在外公館ならびに関係機関各位に対し、心からお礼申し上げます次第です。

平成7年3月

国際協力事業団  
東京国際研修センター  
所長 石崎 光夫

# 目 次

## 序 文

### 第1章 調査実施概要

1. 派遣目的 .....	1
2. 分野・派遣国・派遣期間 .....	1
3. 団員構成 .....	1
4. 調査日程 .....	3

### 第2章 防災・救急分野の概況と課題

1. コロンビア .....	4
2. メキシコ .....	5

### 第3章 人材の育成

1. コロンビア .....	8
2. メキシコ .....	9
3. アフターケアについての要望 .....	11

### 第4章 各研修コースの評価 .....

13

### 第5章 その他 .....

14

### 第6章 添付資料

1. Interview Record (Colombia, Mexico) .....	17
2. 帰国研修員リスト .....	21
3. 各コースの概要 .....	23
4. クエスチョネア .....	24
5. クエスチョネア集計結果 .....	46

## 第1章 調査実施概要

### 1. 派遣目的

本調査団は、国際協力事業団が、技術協力の1つとして実施している研修員受入事業のアフターケアの一環として派遣するものであり、集団研修のうち、救急・防災関連の4コース、つまり「救急救助技術」、「消防行政管理者」、「防災技術」及び「防災行政管理者セミナー」に関し、コロンビア・メキシコ両国において帰国研修員及びその所属機関等を訪問、面談をおこなった。今回から初めて、分野別のフォローアップチームが派遣され、フォローアップの目的である、研修効果の評価・アフターケア・ニーズ評価をより効果的、効率的に実施するとともに本邦研修における分野別のアプローチを充実させる目的のため派遣された。

### 2. 分野・派遣国・派遣期間

分野：救急・防災

派遣国：コロンビア、メキシコ

派遣期間：平成7年1月17日～同年1月28日

### 3. 団員構成

団長(総括)：平山 優  
自治省消防庁 総務課理事官

団員(技術指導)：村木 春彦  
自治省消防庁 防災課災害対策官兼課長補佐

団員(業務調整)：鹿目 武  
国際協力事業団 東京国際研修センター  
研修第1課

・調査範囲及び調査対象

	技術協力窓口	関係機関及び研修員所属先	帰国研修員
評価	1. 当該分野研修の評価 2. 研修員の選考 3. 研修成果の活用	1. 当該分野研修の評価 2. 研修員の選考 3. 研修成果の活用	1. 現職 2. 当該分野研修の評価 3. 研修成果の活用 4. 日本理解
アフターケア	1. アフターケアについての要望	1. アフターケアについての要望	1. アフターケアについての要望
ニーズ調査	1. 人材育成計画 2. 当該分野研修の位置付け	1. 関係機関の制度と現状 2. 当該分野研修の位置付け 3. 職員研修について 4. 本邦研修への要望	1. ニーズ調査

・調査方法

- (1) 予め送付しておいた質問表を回収・分析し、帰国研修員に面接して研修の成果に対する意見を聴取する。
- (2) 帰国研修員の所属機関及び関係機関を訪問し、視察・意見交換を通じて相手国の当該分野における研修ニーズ及び研修成果活用状況を把握する。



4. 調査日程

H7年1月30日

平山団長 調査日程 (変更) 防災・教急分野補国研修員フォローアップ調査 (対象コース: 防災行政管理者セミナー、教急救助技術、消防行政管理者、防災技術)

日順	月 日	曜日	行 程	交通手段	宿 泊 地	指 甲 乙 丙 地 等 別		調 査 内 容
						日 当	宿 泊	
1	1/17	Tue.	東京 (11:00)NH-010 ニュー・ヨーク (09:15)	飛行機	ニュー・ヨーク	指	指	出発日
2	18	Wed.	ニュー・ヨーク (09:30)AV-021 ボゴタ (14:45)		ボゴタ	丙	丙	移動日 JICA事務所表敬
3	19	Thu.			"	丙	丙	表敬、打合せ: 大使館、関係機関訪問
4	20	Fri.			"	丙	丙	援助窓口機関表敬 (国家企業国際技術協力局)、補国研修員面談、補国研修員懇親会
5	21	Sat.			"	丙	丙	
6	22	Sun.			"	丙	丙	団内打合せ及び資料整理
7	23	Mon.	ボゴタ (11:05)AA-916 マイアミ	飛行機	ボゴタ	指	指	
8	24	Tue.	ボゴタ (13:10)SQ-011	飛行機		指	指	
9	25	Wed.	東京 (17:50)	飛行機		丙	丙	

村本団員、鹿目団員 調査日程 (変更) 防災・教急分野補国研修員フォローアップ調査 (対象コース: 防災行政管理者セミナー、教急救助技術、消防行政管理者、防災技術)

日順	月 日	曜日	行 程	交通手段	宿 泊 地	指 甲 乙 丙 地 等 別		調 査 内 容
						日 当	宿 泊	
1	1/17	Tue.	東京 (11:00)NH-010 ニュー・ヨーク (09:15)	飛行機	ニュー・ヨーク			出発日
2	18	Wed.	ニュー・ヨーク (09:30)AV-021 ボゴタ (14:45)		ボゴタ	丙	丙	移動日 JICA事務所表敬
3	19	Thu.			"	丙	丙	表敬、打合せ: 大使館、関係機関訪問
4	20	Fri.			"	丙	丙	援助窓口機関表敬 (国家企業国際技術協力局)、補国研修員面談、補国研修員懇親会
5	21	Sat.			"	丙	丙	
6	22	Sun.			"	丙	丙	団内打合せ及び資料整理
7	23	Mon.			"	丙	丙	JICA事務所報告
8	24	Tue.	ボゴタ (09:30)AV-072 メキシコシティ (12:50)	飛行機	ボゴタ	丙	丙	移動日 JICA事務所表敬
9	25	Wed.			"	丙	丙	表敬、打合せ: 大使館、関係機関訪問、援助窓口機関表敬 (外務省国際科学技術協力局)
10	26	Thu.			"	丙	丙	援助窓口機関表敬 (UICED) 訪問
11	27	Fri.	メキシコシティ (09:10)JL-011	飛行機		丙	丙	メキシコ赤十字訪問、補国研修員との面談 (JICA事務所)、補国研修員との懇親会
12	28	Sat.	東京 (16:55)			丙	丙	

## 第2章 防災・救急分野の概況と課題

### 1. コロンビア

- 1) コロンビアにおける防災・救急体制は、1988年から9年にかけて発生した記録的な長期間の豪雨災害並びにデルルス火山の活動再開とこれまで全く沈黙していた他の2火山の火山活動等により、全国土にわたり様々な緊急事態に直面し、人命の犠牲なども甚大となった苦い経験を経て、これまでの体制の全面的な見直しが行われた。

すなわち、防災・救急体制の一元化を図るため、1988年11月2日、大統領は法律第46号に署名し、新機関として、防災警戒の国家システムが創設され、執行部に関連法律の付加制定権限を付与された。更に翌年5月1日、特別行政令第919号の署名によって、防災警戒の国家システムの指揮命令系統等の組織化が図られ、中央政府と地方団体との縦の関係及び地区単位(特に市レベル)での横の関係等で横断的に組織化された対策と支援が行われるようになった。

- 2) この結果、同国のその後の災害対応等では、人命損傷も含めて被害の大幅な低減を図ることができるようになり、発足後の年数は浅いが国民にも好感を持ってみられるようになってきた。

同法の基本的な考え方とその骨格等は、丁度JICA研修において紹介している我が国の災害対策基本法と似ており、これらが同国の新法の参考とされたものと思われる。

- 3) 従って、同法で規定された法的側面は勿論の事、第一に防災・救急体制の一元化による挙国体制確立を初め、財政的側面、活動計画、高危険地帯の住民移住(日本の防災集団移転制度)、教育と広報活動、科学、技術的側面等、非常警戒と被災地の復旧及び国家防災の10年と今後の課題等名称等は異なるが、それらの基本的な考え方は驚くほどよく似ている。

余談だが、考えてみればこれがJICAによる本コースの研修効果ということで、驚くことはなく、むしろ喜ぶべき事だと実感した。

- 4) しかしながら当然のことであるが、我が国同様に自然災害多発国(少なくともハリケーンは毎年発生するわけでありそれに伴う被害は規模の軽減化は別として避けられない。)である同国で、国民にも注目され始めた「防災警戒の国家システム」も発足後まだ日が浅いことから、同制度が定着していないというのが現状である。

さらには、組織自体も弱体で、これらを運用する人材も絶対数不足であり、行政経験も浅いことから、今後の成長が期待される。

- 5) また、言うまでもなく、制度はできても自国にそのまま応用すると言うわけにはいかない。

なぜならば、我が国のような予算措置(財政問題)、運用資機材、運用ソフト(多方面にわたる諸活動マニュアル等)、人材の技量等は、すぐに達成できるものではなく、このことは帰国研修員自体が良く認識しているところであるが、それでもなお相当の効果を挙げているとのことであり、担当の専門家等も自信と誇りを持って更にJICAの援助等を受けながら頑張っていきたいと語っていたのが印象深かった。

## 2. メキシコ

- 1) メキシコの防災・救急体制を理解する上で、まず念頭に入れておかなければならないのは、同国の経済問題と救急体制の2点である。

メキシコでは、同国の災害対策の基本施策の中に地震やハリケーン等の自然現象に加え、人為現象として大気汚染や水質を含む衛生などを挙げている。

特に、人災として、人口増大と工業発展の諸過程に於ける揮発性と可燃性物質の広範な利用に伴う火災や爆発等の化学・爆発事故等が頻発しており、政治問題化している点に注意する必要がある。

### ① 経済問題と災害対策

メキシコの経済問題は災害対策抑制要因の大きな要因となっているという事実である。

特に、「明日の災害よりも今日のパン」という低所得者層の存在が社会全体の防災体制の向上を築く上で大きな障壁となっている。

同様に経済問題から、メキシコでは、防災対策は住環境問題の一つとして位置づけられており、その理由は、大気汚染・水質汚染対策経費等が乏しいことに起因している。

例えば、第一の直接原因である経済問題として

#### ア. 危機箇所への住居建設

河川反乱地域の河川敷や急傾斜地等の危険箇所に住居を構える(そういうところに、住まざるを得ないという現実がある。)

#### イ. 保険未加入

住民の自衛対策である保険等に加入できない。企業もまた加入率が低い等。

#### ウ. 類焼や倒壊等の危険がある住居の建設

住宅密集地への住居建設や耐震性・耐火性の低い住居の建設。

第二の経済問題に絡んだ大気汚染問題として

ア. 排気ガス対策の乏しい自動車の都市部集中

日本で廃車となった車よりも更に程度の劣る古い車の都市部集中による排気ガス汚染

イ. 工場の排煙等の公害対策の遅れ

脱硫装置等の未設置ないしは、性能の悪さ

第三の経済問題に絡んだ水質汚染問題としてもともと、「アステカの呪い」とも言われる水質の悪さに加え、

ア. 都市部集中者の汚水垂れ流し

下水道の普及率の悪さと浄化槽のない都市部集中者による河川汚染

イ. 工場排水等の公害対策の遅れ

汚水除去対策の未設置ないしは、乏しい工場排水等  
等数え上げればきりが無い。

## ② 救急体制所管と赤十字

メキシコでは、救急・救助の実務業務は、国や地方自治体が行っているわけではなく、赤十字社が担っている。

赤十字社は、アメリカ赤十字社や全米保険機構等の救急関連機関の指導を受けながら救急・救助訓練を行っている。

そこで手の回らない部分は、ボーイスカウトや救世軍や自治大学医学部等の大学生グループ等民間のボランティアに頼っている。

従って、救急・救助体制が著しく落ちているというのが実状であり、これがさらに都市部以外の地域で顕著となっている。

2) メキシコ合衆国は、1985年のメキシコ地震により、首都メキシコを中心として甚大な損害を受けたことを契機に防災・救急体制の抜本的な見直しが行われた。

それ以前は、メキシコの災害対策の対応計画である国防省作成のPLAN-DN-IIIに基づき、陸軍と海軍主体の国防計画の一環として、災害時に軍が作戦指揮を執ることとなっていたが、それにかわり、平時からの災害原因・予防研究調査等から日常訓練まで含めた新機関として1990年に完成した全国災害防止センターがその中核を担う事となった。

即ち、同センターは、軍の一時的な災害応急対応策にとどまらず、平時から災害時の総合的な対応策(財政措置等含む。)まで含めての災害防止及び救急・救助のための技術研究、開発、応用、その他総合調整等を行い、その上で必要な専門的訓練等を一括して行う

事となったわけである。

なお、補足すれば、メキシコ地震翌年の1986年に日本政府との間で抜本的な災害対応策問題解決の研究の為、両国技術科学協力協定が調印され、それを受けて、JICAとメキシコ政府の内務長官を通じ、全国災害防止センター構想実現可能性についての検討に着手し、1988年9月に同センター創設の布告がなされ、最終的には、1990年に完成したという次第である。

- 3) 同センターの運営についても、引き続き日本の援助(JICA)により、日本人スタッフを含め運用技術の定着化とその技術向上等に努めているところである。
- 4) しかしながら当然のことではあるが、前述のコロンビアと同じように、国民にも注目され始めた全国災害防止センターも発足後まだ日が浅いことから、同制度が定着していないというのが現状である。

さらには、組織自体も弱体であり、これらを運用する人材も行政経験が浅い事や絶対数不足もあり、今後の成長が期待される。

- 5) また、言うまでもなく、制度はできても自国にそのまま応用すると言うわけには行かない。

なぜならば、これまたコロンビア同様だが、我が国のような予算措置等は、すぐに達成できるものではなく、このことは帰国研修員自体が良く認識しているところであるが、それでもなお新機関設立に伴い被災の軽減化について相当な効果を挙げているとのことであり、担当の専門家等も自信と誇りを持って更にJICAの援助等を受けながら頑張っていきたいと語っていたのが印象深かった。

## 第3章 人材の育成

### 1. コロンビア

#### 1) 必要な人材

コロンビアにおける防災・救急分野施策遂行上で必要とされている人材は、関係行政機関及び帰国研修員等の面談等によると概ね次の通りと思われる。

- ① 専門分野における、高度な専門知識を有する人材
- ② 職場等で後継者養成のできる人材(総合的な管理監督者研修や、個別分野ごとの専門研修ができる人材)
- ③ 管理・監督者となれる人材

言うまでもなく、コロンビアにおける防災・救急分野制度の改善・向上を図るためには、総合的な視点での管理監督者は勿論の事、それらを支える各方面での専門知識を持った専門家が必要であり、それらが効率よく機能し続けるようにする為には幅広い分野に於ける人材育成が必要であるからであり、これらがなされて初めて制度の確立が図られるからである。

なお、「と思われる。」というのは、当初予定していた政府の直接の担当部局である内務省災害対策局のヒアリング等ができなかったからであり、その理由は、我々調査団は予定通り同局を訪問したが、丁度その直前に発生したボゴダ市内でも死傷者を伴う大規模地震により、同省担当局長等がその対応策に追われ、結局断念せざるを得なかった(この地震は、日本でも報道された。)からである。

以下は、これらの結論を導きだした背景等であるが、以上のことから言うまでもなく政府担当部局の見解とは異なる、または、正確性を欠く記述があるかもしれないという点に注意されたい。

#### (必要な人材の背景等の概要)

コロンビアは、地震・洪水・火山噴火等各種自然災害の多い国であり、これに伴う治山・治水・海岸保全等各種基盤整備事業等が必要であるが、これらを推進する人材が少ない。

1989年法律により、防災警戒の国家システムの組織化が図られ、中央政府と地方団体との縦の関係及び地区単位(特に市レベル)での横の関係等で横断的に組織化された対策と支援が行われるようになってきたが、組織が弱体であり、これらの人材も絶対数不足である。

リーダーについて見れば、特定の専門分野で優れた人材がおり、部分的にはコロンビア

もそれほど遅れてはいない(リーダーは、日本のJICA元研修員や米国の大学卒業生等であり、博士号を持っている者もいる。)という考えもあるが、絶対数が不足しており、まずもって職員全体のレベルアップが大事だというそれ以前の問題があると考えている。

大統領が代わって、特に防災に力を入れるべきだと言われるようになった。

環境保全という流れの中で、いたずらに自然を相手に投資するよりも被災予測地域住民の集団移転施策推進や、日本の優れた防災教育(特に一般市民に対する防災意識向上施策)推進等が、大事だと考えている。

その為の法制度を含めた各種制度や各方面における人材養成等が不可欠であり、この為我々は、職場等を通じて人から人へ伝える等して人材の養成を図っているが、やはりJICAによる一般(民間)を含めた広範な人材教育プログラムが期待されており、この旨JICAに昨年9月に照会もしている。

同様の要請照会は、アメリカに対してもなされている。

## 2) 研修員の募集と選考

研修員の募集に関しては、ICETEX(海外留学技術研修基金)は、JICAの研修を含め、募集を新聞紙面に掲載し、広く情報を提供している。

各所属機関における選考は、英語力のテスト(TOEFL 500点以上)が課され、本人の適性等厳格に選考されていると思われた。

## 3) 帰国研修員の処遇

ほとんどの帰国研修員が、関連部署等で活躍していることがわかった。人によっては、重要なポストを任せられており、所属先でも積極的に人材活用されている。

## 4) 研修成果の活用

今回面談をした全員が何らかのかたちで日本での研修で得たノウハウを利用していることがわかった。例えば、帰国後所属機関内で報告会を開いたり、研修の際、入手したビデオテープ、テキスト等を活用したり、他機関で講演会を開く等していた。

何人かの研修員よりコースの地域特設化の希望、また、資格要件についても行政官だけではなく、民間も入れてほしい等の要望がなされた。

また、日本の最新の技術、日本における防災教育についてのセミナーをコロンビアにおいて実施してほしいとの意見も出された。

## 2. メキシコ

### 1) 必要な人材

メキシコにおける防災・救急分野施策遂行上で必要とされている人材は、コロンビアと似たようなものであり、概ね次の通りである。

- ① 専門分野、専門知識を有する人材
- ② 職場等で後継者養成のできる人材(総合的な管理監督者研修や、個別分野ごとの専門研修ができる人材)
- ③ 管理・監督者となれる人材
- ④ 専門分野に関連した分野でも、専門家として教育等ができるような人材

なお、メキシコの政府担当部局は、外務省の文化局と技術局であるが、同省局長等のこれらに関連したコメントとして次のようなものがあった。

ア. 帰国研修生が各方面で専門家として活躍しており、その実力が高く評価されていることから、特にJICA研修の位置づけは高く、社会的にも好感を持って認められている。

イ. この意味で我々が調査対象とした防災・救急分野に限らず他のコースも含めて、応募者数が多いので同国の研修生の割り当て人数を増やしてもらえないかという要望があった(一か国1名の原則があり、それを崩すとすれば、外交案件という次元の高いものとなり難しく困難である旨説明済み。)

ウ. 帰国研修員は、身近な例として国立防災研修センターの無償プロジェクト事業を推進している者もあり、また、メキシコのみならずこの地域(ラテンアメリカ)全体のために活躍しており、政府としてもそのような人材活用をしていきたいと考えている。

エ. この点につき、JICAのフォローアップ(研修トレーナーやインストラクター等)等をしていただけないかと考えている。

言うまでもなく、この度の神戸の震災を機に、日本では色々な面でのアイデアが出てくると考えられるので、別の分野に属するかもしれないが、メキシコと日本で新分野についての研修をやれたらと思う。

オ. 政府としては、日本で行われている小さな子供たちも自然に参加している防災訓練等も大変良いと考えている。

即ち、小・中学校に於ける防災教育等も大事であると考えており、この点で帰国研修員が専門分野に関連した分野でも、専門家として人材教育に役立つと考えている。

カ. メキシコは、地震の巣となっている地域があり、また、山火事対策等もあるので、アメリカやカナダに対して協力をお願いしているが、それは技術関係の協力である(日本のような広範なものではないという意味。)



キ. 帰国研修員の評価も高く、彼等の希望として

- ・3ヵ月は短い。その理由は、実習と運用技術等の拡充強化。
- ・グループは8人位が良いのではないか。
- ・講師との直接対話ができるようなシステム改善(座学中心の改善)等がある。

ク. これらは、それだけ日本に対する期待と評価が高いことの現れと考えられ、我々としても現にそれだけの支援コースがあるのはJICAだけだと認識している。

ケ. 言うまでもなく、総合的な視点での管理監督者は勿論の事、それらを支える各方面での専門知識を持った専門家が必要であり、それらが効率よく機能し続ける為には幅広い分野に於ける人材育成が必要であり、この点で本コース等のお一層の拡充強化を望みたい。

## 2) 研修員の募集と選考

研修員の募集に関しては、メキシコ国外務省文化局が、窓口になっている。選考に際しては、メキシコ側として特に①専門分野の知識、②候補者に対する所属先からの適切な推薦、③優れた職務成績、④優れた英語能力(最低90%以上)に留意しているとの説明があったが、英語能力に問題のあるメキシコ研修員が過去において散見されたので、今後、選考において、英語能力についてさらに厳密な審査をしてもらう様依頼した。研修員には、帰国後、当該分野で働くことを口頭にて約束しているということだが、企業は、徹底することが難しいとの説明だった。

メキシコ側よりGI(英文募集案内)の接収が遅いとのコメントがあった。

## 3) 帰国研修員の処遇

コロンビアと同様帰国研修員は、関連部署に在籍していた。研修員のなかには、帰国してから当該分野の研究プロジェクトの長などを行っているもの、日本で得た知識をもとにセミナーの企画や講師をしているものも居た。

## 4) 研修成果の活用

コロンビア同様活用していることがわかった。所属先によっては、帰国後のセミナーの開催を義務づけている所もあった。

## 3. アフターケアについての要望

### 1) コロンビア

アフターケアについては、研修後、当該分野で問題が起こった時、あるいは、アドバイ

スが欲しい時にどこに問い合わせを行ったら良いのかわからないので、JICAが日本の関連機関とのかけ橋になって欲しいとの要望があった。

現時点では、研修員が個人的に日本での研修時の講師等に問い合わせをする方法しか無い。全ての研修員の要望に答えるのは、難しいであろう。

また、研修員は、最新技術の情報誌を望んでいるが、全ての研修員に対して必要な情報を与えることは、不可能である。予算的な問題もあるのだが、事務所を通じて当該分野最新の集団コースのテキストの情報を研修員が得れる様にすれば役立つのではないかと思っ

## 2) メキシコ

研修員によっては、日本より送付されているはずの機関紙が配達されていない人もいた。最新の技術紹介等についてのセミナーをメキシコにて開催してほしいとの要望があった。帰国研修員を対象とした上級コース設立の希望があった。

## 第4章 各研修コースの評価

次の各コースについて、ほぼ同様の評価につき、一括して述べる。

各コースとも、日本の進んだ諸施策が大変有意義であるとの高い評価であった。

特に、現地視察等の体験的学習(実習)が、好評であり、ビデオ等の視覚教材を使用したものがわかりやすいとの指摘があった。

希望としては、ステップアップした研修の実施や帰国後も参考資料を送付ないしは相談できるようにして欲しいとのことであった。

また、我が国のような予算措置(財政問題)や、多方面にわたる豊富な運用資機材等は、そのままストレートに自国に適用できるものではないが、日本の防災・救急体制関係資料を見せると皆びっくりしており、そのカルチャーショック自体が防災教育等にも貢献しているという側面もあるのでそのような資料提供等についての検討方について提案等があった。

結論として、我が国に対し高い評価と友好の情を示し、JICA研修に誇りを持ってそれぞれの分野で、まさにリーダーとして活躍しているという様子が実感でき、余談だが、改めてJICAの現地事務所を含めた関係者の皆様に敬意を表するとともに、こちらとしても関係者の一人として誠に嬉しい限りであった。

(関係コース)

1. 救急・救助コース
2. 消防行政管理者コース
3. 防災技術コース
4. 防災行政管理者コース

## 第5章 その他

### 1. 日本の理解・国際親善の観点からの評価

研修員の受入れ事業においては、各分野における技術研修を通して、途上国の人材育成に寄与し、自助努力を促していくことが最も重要な要素になっている。今回の調査対象分野である救急・防災分野についての研修も、コロンビア、メキシコが抱えている多種多様な課題の解決のためのひとつの手段として人材育成の面から寄与しているものと位置づけられる。

また、各国から我が国に来訪する研修員に、日本及び日本国民について理解してもらい、各国との友好関係をさらに発展していくことも、研修員受入事業の重要な柱のひとつである。

今回の調査では、コロンビア、メキシコにおいて帰国研修員と面談を行ったが、各研修員の日本に対する印象は、総体的に肯定的かつ友好的なものであった。

各帰国研修員においては、講義、研修旅行、日本語講習を通じて、あるいは余暇を利用して実施している各種厚生活動(地元小学生との交流、茶道・生け花教室等)を通じて、様々な日本の実情に接し、かつ多くの日本人と交流することが出来、貴重な経験が持てたことと思う。

## 第 6 章 添付資料



I. Interview Record

INTERVIEW RECORD (COLOMBIA) NO. 1

N a m e	Present Position, Office	A d d r e s s
Carlos Alberto Cortes D.	Coordinador Programa Vulnerabilidad Ac-Alc. Empresas Municipales de Cali	Calle 3 No. 10-26
Fernando Antonio Munos Carmona	Subdirector, Area de Geofisica, INGEOMINAS	Diagonal 53 No 34-53 Apartado Aereo 4865 Santafe de Bogota, D.C.
Belson E. Pulido H.	Ingeniero Civil, MSc.Ingenieria Sismica, INGEOMINAS	"
Omar Dario Cardona Arboleda	Director General, Direccion Nacional para la Prevencion y Atencion de Desastres, Ministerio de Gobierno	Calle 26 No.13-19 Piso 26, Santafe de Bogota D.C.
Juan Manuel Uribe Robledo	Asesor, Director General, Direccion Nacional para la Prevencion y Atencion de Desastres	"
Jorge A. Cardona Montoya	Gerente Cooperativa Multiactiva de Alimentos	Av.33 # 76-14 Medellin
太田 勝也	在コロンビア日本国大使館一等書記官	
早川 政利	JICA URGEMED - Profesionales en Servicio de	Calle 72 No.10-07 Piso 7 Santafe de Bogota

## INTERVIEW RECORD (MEXICO)

NO. 1

N a m e	Present Position, Office	A d d r e s s
Luz Elena Banos Rinas	Directora de Intercambia Academico y Becas SRE	
Efren Martin Lopez	Subdirector para Japon y Estados Unidos, Direccion General de Cooperacion tecnica y Cientifica, SRE	Homero No.213 piso 2, Col.Chapultepec Morales C.P.11570
Arturo Marquez del Prado	Subdirector de Asia, Africa y Pacifico De La Direccion de Int. Academico y Becas	
Gabriel Gomez Radilla	Jefe Depto. para Asia, Africa y Pacifico Direccion Intercambio Academico y Becas	
Roberto Meli	Director General, CENAPRED-Centro Nacional de Prevencion de Desastres, Secretaria de Gobernacion	Av.Delfin Madrigal N° 665, Col. Pedregal de Santo Domingo, C.P.04360 Coyoacan
Lorenzo Sanchez	Secretario Tecnico, Coordinacion de Investigacion, CENAPRED 研究部技術秘書	"
Ricardo Cicero B.	Dissemination Coordinator, CENAPRED 広報部長	"
Tatsuo Murota 室田 達郎	Director del Equipo Asesor Japonés, CENAPRED チームリーダー	"
Mitsuo Yoshida 吉田 充夫	Coordinador, Equipo Asesor Japonés 技協チーム調整員	"
Jorge Hijuelos C.	Presidente, URGEMED - Profesionales en Servicio de Urgencias Medicas, A.C.	Av.Universidad 2042-904 Col.Copilco, Mexico D.F. 04370
Harris Lee Sanchez	Vicepresidente, URGEMED	"
Hector Alcaraz Mola	Director Gral.Operaciones, URGEMED	"



## INTERVIEW RECORD (MEXICO)

NO. 2

N a m e	Present Position, Office	A d d r e s s
Mactzin Hernandez	Director Administrativo, URGEMED	Av. Universidad 2042-904 Col. Copilco, Mexico D.F. 04370
Jose Leon Garcia	Director de Ensenanza, URGEMED	"
Alberto Rodriguez Martinez	Cordinador, Programa Interinstitucional de Prevencion de Riesgo y Monitoreo Industrial, UNAM	Ed. "C", 1 <sup>er</sup> Piso, Division de Estudios de Posgrado, Facultad de Ingenieria, C.U., 04510
Nanci Silva Esteva	Director Responsable de Obra, Perito del Tribunal Superior de Justicia del Distrito Federal 1994	Tabasco No. 313-204, Col. Roma, D.F.
Fernando Machuca Cisneros	Director de la Escuela Nacional de Rescate Urbano	
Ana Ma. Noeh de Timmermann	Presidente del Comite de Asuntos Inter- nacionales, Cruz Roja Mexicana	Luis Vives 200, Col. Los Morales, 11510 Mexico, D.F.
Juan Said Homse	Consejero Nacional, Cruz Roja Mexicana	"
Masaharu Ikegami	Master en Ingenieria Civil, Primer Secretario, Embajada del Japon	Paseo de la Reforma No. 395 Col. Cuauhtemoc, 06500, Mexico D.F.

## INTERVIEW RECORD (MEXICO)

NO. 3

N a m e	Present Position, Office	A d d r e s s
Ana Maria Lopez Ponce	Secretaria Administrativa, JICA	Aristoteles N° 77-403 Col. Chapultepec Morales 11560 Mexico, D.F.
Tetsuhiko Hasuda	Jefe Consejero, JICA	Km. 4 Carr Ex-Hda La Esme- ralda, C.P. 33960 Hgo. del Parral, Chih., Mexico
Keiko Suzuki 鈴木 恵子	zinterprete Traductor Japonés Español スペイン語通訳・翻訳	Camino Real Al Ajusco 831-11, Teperan, Xochimilco

2. 帰国研修員リスト

帰国研修員リスト (コロンビア)

COURSE: ADMINISTRATION FOR DISASTER PREVENTION

N A M E	I N S T I T U T I O N	A D D R E S S	C I T Y
MR. JORGE A. CARDONA MONTOLA		CALLE 94A# 46-17 OF. 204 ☎ (94) 2436322	MEDELLIN
MR. CESAR AUGUSTO CARVAJAL MARIN	INGEOMINAS	AVE. 12 DE OCTUBRE #15-47 ☎ (968) 843004	MANIZALES
MR. CARLOS CORTES	EMCALI-SEWERAGE DIRECCION OPERACIO Y MANTENIMIENTO	CALLE 3 OESTE #10-26 ☎ (92) 5569196/8896356	CALI
MR. ALVARO SALAMANCA	CHUBB DE COLOMBIA INSURANCE CO.	CARRERA 7 # 71-52 PISO10 TORRE B ☎ 3123700, 3124066	BOGOTA
MR. EDISON DAZA	BOMBEROS VOLUNTARIOS DE PALMIRA	CALLE 32 #27-80 APT. 201 ☎ 922-756677/92-6613931	PAMIRA VALLE
MR. JORGE HURTADO	MASTER PROGRAM IN BARCELONA, SPAIN		
MR. XAVIER ANTONIO BONILLA	PRIVATE CONSULTANT	CARRERA 7 #72-92 ☎ 2550720	BOGOTA
MR. JUAN MANUEL URIBE	ATENCION DE DESASTRES-MINISTERIO DE GOBIERTO	CALLE 26 #13-19 PISO 26 ☎ 2834966	BOGOTA

帰国研修員リスト (メキシコ)

NAME	TRAINING SUBJECT	DURATION	PRESENT OCCUPATION	PHONE NUMBER
MR. MARCO J. ALBERTO RODRIGUEZ MARTINEZ	SEMINAR ON ADMINISTRATION FOR DISASTER PREVENTION	1990 2/7 1990 3/2	COORDINATOR OF THE RISK PREVENTION AND INDUSTRIAL MONITORING INTERINSTITUTIONAL PROGRAM AT THE FACULTY OF ENGINEERING, NATIONAL AUTONOMOUS UNIV. OF MEXICO	622-32-25 622-32-26 FAX: 6161073 6228091 HOME: 5244268
MR. SERGIO GUERRA ZENTENO	SEMINAR ON ADMINISTRATION FOR DISASTER PREVENTION	1990 2/7 1990 3/2	HE WAS NOT LOCALIZED.	
MR. RICARDO CICERO BETANCOURT	SEMINAR ON ADMINISTRATION FOR DISASTER PREVENTION	1990 10/22 1990 11/18	DIFFUSION COORDINATOR, NATIONAL CENTER FOR DISASTER PREVENTION	606-81-11 606-75-53
MS. NANGI SILVA DE GUTIERREZ	SEMINAR ON ADMINISTRATION FOR DISASTER PREVENTION	1990 10/22 1990 11/18	SHE IS WORKING AS ARCHITECT AT HER OWN EXPENSE ONLY.	HOME: 207-25-99
MR. JUAN ANTONIO MIGUEL SAENZ BELTRAN	RESCUE AND FIRST AID TECHNIQUE	1990 3/28 1990 11/27	SPECIAL MISSION, WITH RESIDENCE IN MOZAMBIQUE, AFRICA, MEXICAN RED CROSS	395-11-11 ext. 106
MR. HARRIS LEE SANCHEZ	RESCUE AND FIRST AID TECHNIQUE	1990 3/28 1990 11/27	HE IS WORKING AS ARCHITECT IN A PRIVATE COMPANY AND ALSO HE IS WORKING AS VOLUNTEER IN: PROFESSIONALS IN MEDICAL URGENCIES SERVICES, A. C.	658-95-39 616-14-13 530-30-89 (HOME)

### 3. 各コースの概要

#### 防災行政管理者セミナー

国内研修機関：(財)都市防災研究所

##### コースの目的：

開発途上国の防災行政担当者に対し、我が国の防災行政の制度、体制等、防災行政全般について研修することにより、各国の実情にあった防災体制の整備、長期的な防災力の向上に資するとともに国際的な防災協力に関する理解を深めることを目的としている。

#### 消防行政管理者

国内研修機関：自治省消防庁

##### コースの目的：

参加国の幹部職員に対し、日本の経験に照らしつつ消防行政における組織、制度、教育等の運営管理のあり方を講義・視察により研究し、また、セミナー参加国等の諸問題について討論する場を提供し、問題点・解決策等を検討する。

#### 防災技術

国内研修機関：自治省消防庁

##### コースの目的：

参加国の防災関係機関の職員に対し、日本の経験に照らしつつ防災行政における組織、制度、教育等の運営管理のあり方を講義・視察により研究し、また、参加研修員派遣国の防災行政に係る諸問題について討論する場を提供し問題点、解決策等を検討する。

#### 救急救助技術

国内研修機関：自治省消防庁

##### コースの目的：

講義、視察研修及び実地訓練を通じて、日本における救急救助行政に関する組織、制度、業務の概要及び各種災害の現況についての情報を提供するとともに、火災、地震等の災害や事故により生命、身体が危険に直面し、自力で脱出又は避難できない要救助者を種々の救助技術を駆使して救助し、応急手当を施すことができる知識、技術を習得させる。

また、セミナーを通じ参加研修員間の消防・救急救助行政分野について、一層の相互理解を深めるための情報交換を行う。なお、本件コースは、昭和62年度から実施しているものである。

4. クエスチヨネア  
(技術協力窓口用)

FOLLOW-UP TEAM  
FOR  
JICA EX-PARTICIPANTS  
OF  
GROUP TRAINING COURSE  
IN  
Disaster Prevention and Rescue

Questionnaire  
for  
the Technical Cooperation Department

It will be much appreciated if you would complete this questionnaire and forward it to the JICA office .

JICA has been conducting the group training courses in the field of Disaster Prevention and Rescue, four courses, annually in accordance with the purpose and objective specified below.

1. Administration for Disaster Prevention (seminar)
2. Rescue and First Aid Technique
3. Fire Service for Administrative Officers
4. Disaster Prevention Administration

QUESTIONNAIRE  
NEEDS SURVEY

1/3

(For the Technical Cooperation Department)

1. Human Resources Development Plan

1-1. Please describe the principle for human resources development.

1-2. Is there any project to promote human resources development of this field?

1-3. Is human resources development programme of this field included in your education system?

1-4. How is the human resource development policy formulated?

2. Importance of training for the field concerned

2 / 3

2-1. What priority does this particular field occupy in your countries development plan?

2-1-1. priority

2-1-2. goal

2-1-3. proportion of the budget for this field against the national budget

2-2. Which sub-sectors receive higher priority in the field?

2-3. What hinders the development of that sub-sector? (human resources, funds, technology, organization system etc...)



2-4.How can you find the solution?

3 / 3

2-4-1.resolution of your own

2-4-2.assistance from other government than Japan

2-4-3.assistance from Japanese government

Thank you very much for your cooperation.

QUESTIONNAIRE  
EVALUATION-AFTER-CARE SURVEY

1/3

(For the Technical Cooperation Department)

1. Evaluation of this training course

1-1. Do you think the training course was effective for the human resources development of this field?

--

1-2. Please comment of the purpose, content, applicants, number of participants, and duration of the training course

1-2-1. purpose
1-2-2. content
1-2-3. applicants

1-2-4. number of participants

1-2-5. duration

1-3. Considering the importance of this field under your country's development plan, do you think that more participants in this field should be sent to this training course in the future?

2. Selection of participants

2-1. How do you select organizations for delivering G.I.

2-2. How do you select participants in the technical cooperation department?

3. Applicability

Do you have any plan to enhance the effective use of the knowledge ex-participants acquired

4. Request for aftercare services

JICA has been delivering magazines for participants and supporting ex-participants alumni associations as an aftercare service.

Do you have any other requests?

Thank you very much for your cooperation.

(関係機関用)

FOLLOW-UP TEAM  
FOR  
JICA EX-PARTICIPANTS  
OF  
GROUP TRAINING COURSE  
IN  
Disaster Prevention and Rescue

Questionnaire  
for  
the Relevant Organization

It will be much appreciated if you would complete this questionnaire and forward it to the JICA office .

JICA has been conducting the group training courses in the field of Disaster Prevention and Rescue, four courses, annually in accordance with the purpose and objective specified below.

1. Administration for Disaster Prevention (seminar)
2. Rescue and First Aid Technique
3. Fire Service for Administrative Officers
4. Disaster Prevention Administration

QUESTIONNAIRE  
NEEDS SURVEY

1/5

(For the relevant organization)

It is much appreciated if you would complete this questionnaire and forward to the JICA office in order to accomplish our mission. Please use additional sheet of paper and attach it herewith, if necessary.

Name of Your Organization: \_\_\_\_\_

Please explain briefly duties or services of your organization. (Please attach an organization chart herewith.)

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

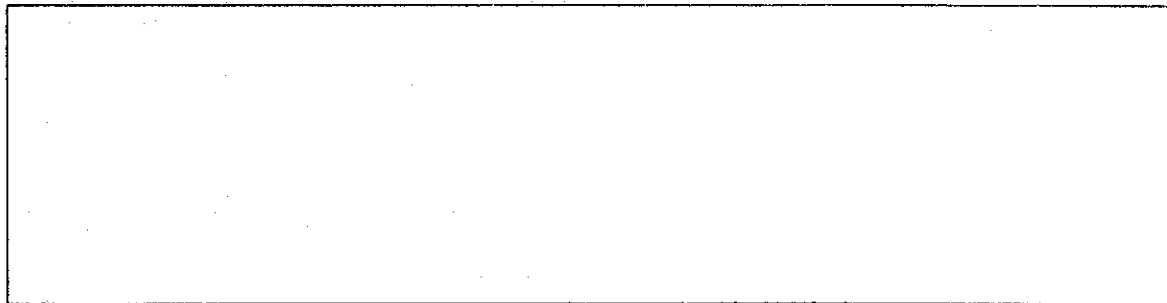
(QUESTIONS)

1. Systems and the current condition of your organization
  - 1-1. Please answer about the basic status of your organization (Basic Information concerning needs survey-attached)
  - 1-2. Please comment on the personnel sufficiency of the field and level respectively in your organization

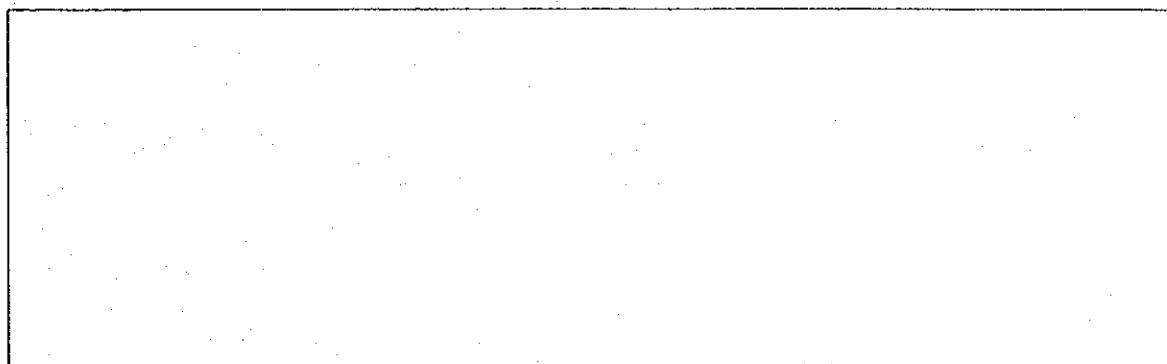
2. Importance of training for the field concerned

2 / 5

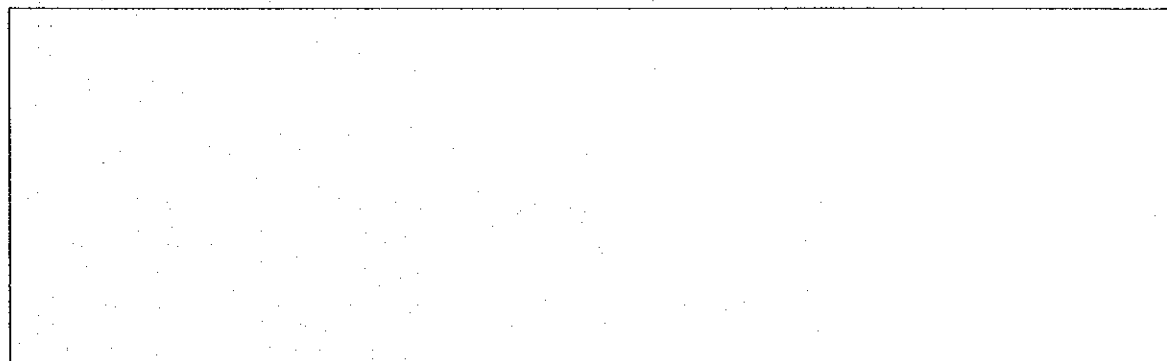
2-1. Which sub-sectors receive higher priority for development in your organization?



2-2. What are the problems in developing those areas?

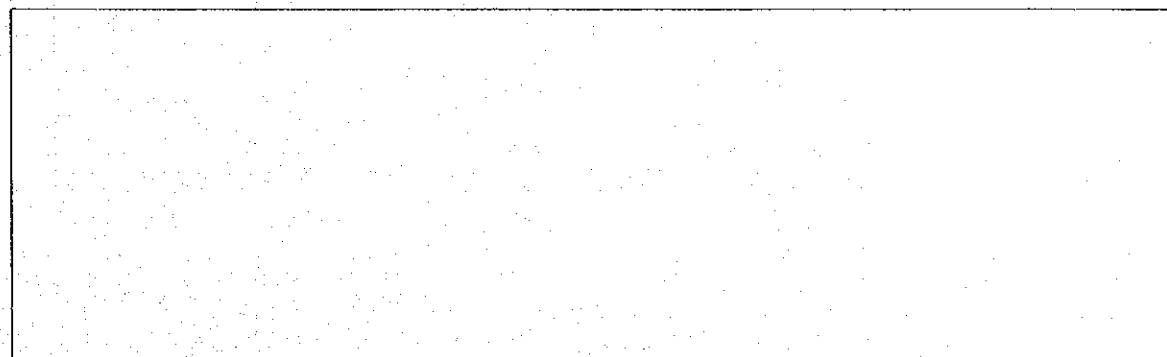


2-3. Are there any specific plans concerning the problems described above?



2-3-1. What are the main projects in this sector during the past 3 years?

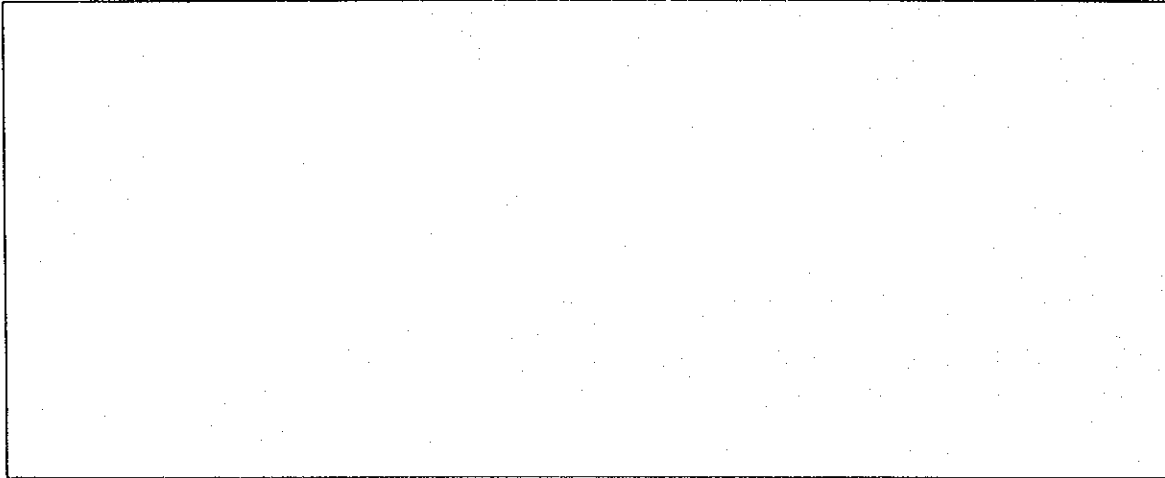
2-3-2. How about projects in the next 5 years?



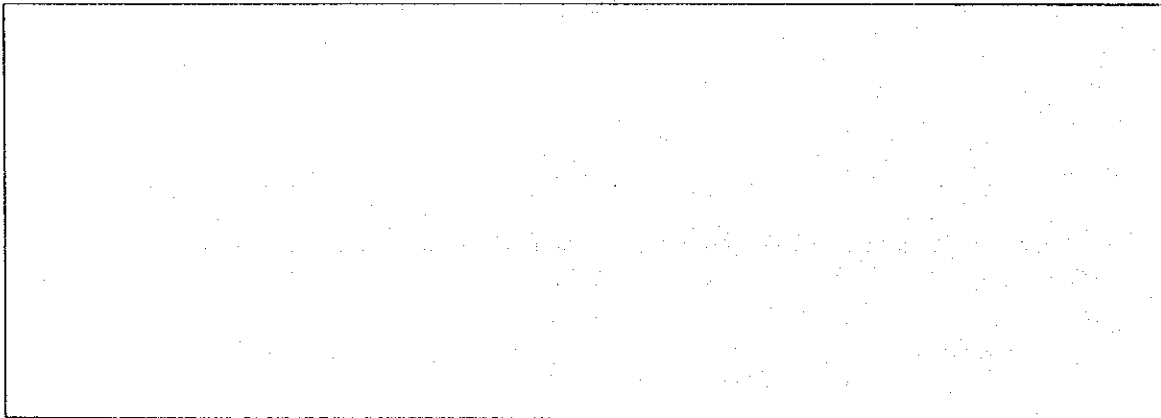
3. Employee training

3 / 5

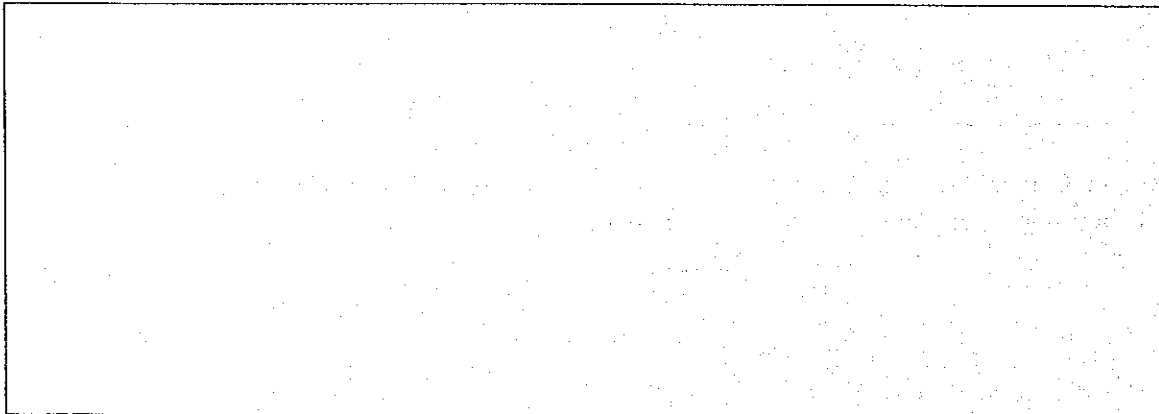
3-1. What type of human resources and how many of them are you planning to develop in the next 5 years in your organization?



3-2. What type of domestic training programmes are available in your country?

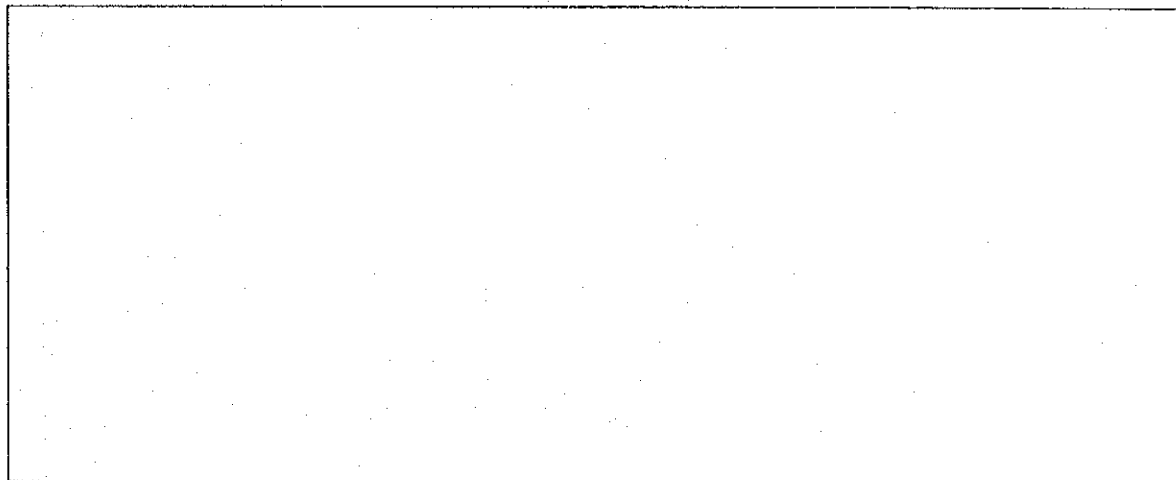


3-3. What is expected to be attained from the domestic training?

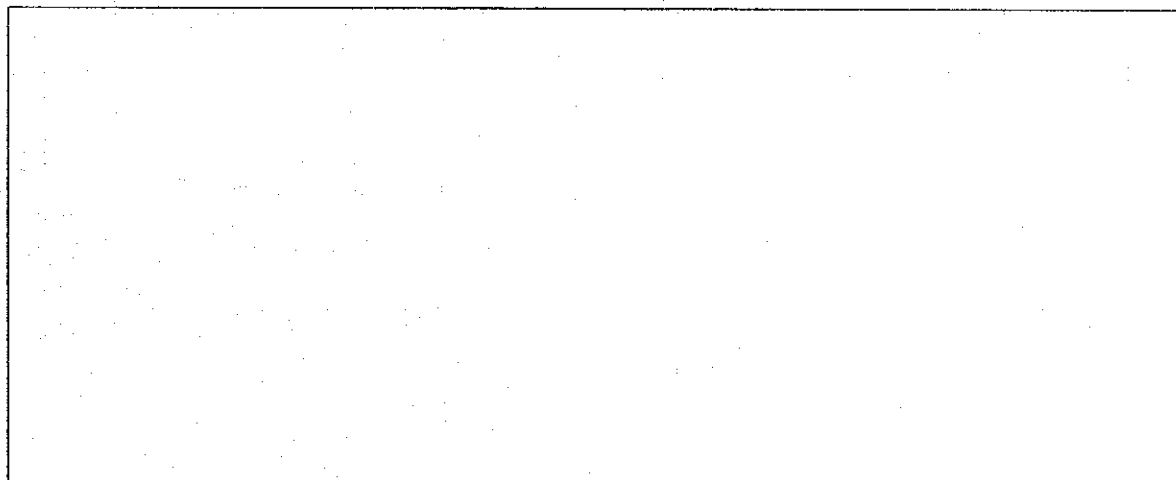




3-4. What type of overseas training programmes are available for the employees?

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for the answer to question 3-4.

3-5. What is expected to be attained from the overseas training programme?

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for the answer to question 3-5.

4. Request for training in Japan

5 / 5

4-1. What do you expect from your training in Japan?

4-1-1 field

4-1-2 level of the participants targeted

4-1-3 number of participants

Thank you very much for your cooperation.

QUESTIONNAIRE  
EVALUATION-AFTERCARE SURVEY

1/3

(For the relevant organization)

1. Evaluation of this training course

1-1. How do you evaluate the ex-participants' acquisition from the training in your organization?

1-2. How does this training course work for the actual activities in your organization?

1-3. Considering the direction of future development and the purpose of activities of your organization, do you want your employees to participate in this training course?

3 1-4. Please comment of the purpose, contents, applicants, number of the participants, and duration of this training course

purpose
contents
applicants
number of the participants
duration

2. Selection of participants

3 / 3

2-1. How do you select applicants in your organization?

3. Applicability

3-1. Please describe the examples that the ex-participants make use of their knowledge acquired

3-2. Do you have any plan to enhance the effective use of the knowledge ex-Participants acquired

4. Request of aftercare services

4-1. JICA has been delivering magazines for participants and supporting ex-participants alumni associations as aftercare service.

Do you have any other requests?

Thank you very much for your cooperation.

(帰国研修員用)

FOLLOW-UP TEAM  
FOR  
JICA EX-PARTICIPANTS  
OF  
GROUP TRAINING COURSE  
IN  
Disaster Prevention and Rescue

Questionnaire  
for  
the Ex-Participants

It will be much appreciated if you would complete this questionnaire and forward it to the JICA office .

JICA has been conducting the group training courses in the field of Disaster Prevention and Rescue, four courses, annually in accordance with the purpose and objective specified below.

1. Administration for Disaster Prevention (seminar)
2. Rescue and First Aid Technique
3. Fire Service for Administrative Officers
4. Disaster Prevention Administration

QUESTIONNAIRE  
EVALUATION-AFTERCARE SURVEY  
(For the Ex-Participants)

1/5

You are kindly requested to complete this questionnaire and forward to JICA office. Please use additional sheet of paper and attach it herewith, if necessary.

• Your Name, Your Course-Title and Year of Participation (Fill in the below.)

Mr./Ms. \_\_\_\_\_

Title \_\_\_\_\_ Year19\_\_

• Your Address & Phone Number (Fill in the below.)

Residence \_\_\_\_\_

Phone: \_\_\_\_\_ Fax.No. : \_\_\_\_\_

Office \_\_\_\_\_

Phone: \_\_\_\_\_ Fax.No. : \_\_\_\_\_

(QUESTIONS)

1. Present Occupation

1-1. What is your present occupation? Please describe your responsibility in detail.

Position \_\_\_\_\_

Division of Department \_\_\_\_\_

Name of Your Organization \_\_\_\_\_

Type of Your Organization ( ) Governmental, ( ) Local Governmental,  
( ) Semi-Governmental, ( ) Non-Governmental/Private

1-2. Please describe your career path from the time of returning home up to now.

2. Evaluation of this training course

2-1. After returning home, was the course useful for your present job? List the topic which you thought were useful.

2-2. Contrary, what are the topics which were not useful? Describe the reasons.



2-3. Please comment on the purpose, contents, applicants, number of the participants, and duration of this training course from the ex-participants' point of view.

2-3-1 purpose
2-3-2 applicants
2-3-3 number of the participants
2-3-4 duration

### 3. Applicability

3-1. Since you returned from the training, have you had any opportunities to introduce actively your acquired knowledges and skills in the training to the others?

--

3-2. Do you think that the personnel changing policy adopts the system which considers the effect of the training in Japan?

Are there any possibilities that ex-participants are transferred to the sectors unrelated to their field?

--

4. Needs Survey

4-1. What is the biggest problem in your field?

What are the causes of it?

problem
causes

5. Understanding of Japan

5-1. Has your impression of Japan changed after visiting Japan? If the answer is Yes, how did it change?

5-2. What impressed you most during your stay in Japan?

5-3. Would you like to come to Japan again as a participant, if there is a chance?

6. Request for aftercare services

6-1. JICA has been delivering magazines for participants and supporting ex-participants alumni associations as an aftercare service. Do you have any other request?

Thank you very much for your cooperation.

5. クエストヨネア集計結果

アンケート  
評価－アフターケア調査  
(帰国研修員対象)  
コロンビア

このアンケートにご記入の上、JICAのオフィスにお送りください。 必要ならば別の紙に記入し、ここに添付して下さい。

・ あなたの氏名、コースの名称、参加した年、住所、電話番号 (下に記入して下さい。)

\* JUAN MANUEL URIBE (ウリベ)

災害防止行政 (1993)

(自) Calle 141 #15-82 Ap.207, Bogota 電話 : 625-4473

(事) Calle 26 #13-19 Piso 26, Bogota 電話 : 283-4966 Fax: 286-0485

\* XAVIER ANTONIO BONILLA (ボニラ)

災害防止行政 (1995)

(自) Carrera 7 #72-92, Bogota

電話 : 2550720 Fax: 2126129

\* ALVARO SALAMANCA (サラマンカ)

災害防止行政 (1991)

(自) Cra. 5 No. 71A-06 APTO 601, Bogota 電話 : (571) 2126138

(事) Cra. 7 No. 71-52 TORREBPISO 10, Bogota 電話 : (571) 3122474 Fax: (571) 3122401

\* CESAR AUGUSTO CARVAJAL MARIN (マリン)

災害防止行政 (1991)

(自) BALCONES DE CHIPRE No. 18-42

電話 : 836093

\* EDISON DAZA (ダザ)

災害防止行政 (1992)

(自) C11 35 27-80 Apto 201 A.A. 047 Palmira(V) 電話 : 735072

(事) 電話 : 756677

\* JORGE A. CARDONA MONTOYA (モントヤ)

災害防止行政 (1990)

(自) Calle 79 C #75-100 Blozue 64 Apt 331

電話 : 57-4-257-5446

Unidad Residencial Altamira, Medellin Fax: 57-4-243-6322

(事) Avenida 33 #76-14 Medellin

電話 : 57-4-243-6322

Fax: 57-4-243-6322

\* CARLOS CORTES (コルテス)

災害防止行政 (1992)

(自) Carrera 22A No. 7A-42 Oeste, Cali-Colombia 電話 : (57-23) 5569196

(事) Calle 3 Oeste No. 10-26 Oeste, Cali-Colombia 電話 : (57-23) 8896356

Fax: (57-23) 8896350

(質問)

1. 現在の職業

1-1. あなたの現在の職業は何ですか？ あなたの責任を詳しく記入して下さい。

名前	地位・部門	組織の名称	組織のタイプ
URIBE	危険軽減及び災害準備全国理事会 理事長の顧問 ・基本的な職務は、他の組織との 関係の強化、幾つかの政府の オフィスと協力した新活動の促 進、副理事長、事務の調整。	政府の省	政府関係
BONILLA	民間コンサルタント 環境管理、資源計画、 災害防止及び削減	ハビア・ボニラ & アソシエーツ	非政府/民間
SALAMANCA	保険業 保険部長	CHUBB DE COLOMBIA	非政府/民間
MARIN	地質学 マニザレスの火山観測所所長	INGEOMINAS	政府関係
DAZA	技術 (研修) COMANDANCIA BOMBEROS PALMIRAの 顧問補佐	ASSOCIATION DEPARTMENTAL BOMBEROS	公共
MONTOYA	COMITES MUNICIPALES DE ANTIOQUIA ASESOR OF COMITES MUNICIPALES グループのメンバー ・ANTIOQUIA 赤十字は、 コロンビア赤十字であり、人災 や天災の防止及び対処を担当す る民間組織の一つです。	ANTIOQUIA 赤十字	非政府/民間
CORTES	上下水道管理 弱点プログラムのコーディネータ ・私は、Cali市で飲料水系と排水 系の自然災害防止軽減が目的の プロジェクト実行を委託されて いました。	EMPRESAS MUNICIPALES DE CALI - EMCALI	地方自治体

1-2. 帰国してから今までの経歴を記して下さい。

- ・変化はありません。 (ウリベ)
- ・帰国後、災害防止全国局で勤務を続けました。これは大統領所属の組織です。  
私の職務は：a)住宅再建計画 b)災害防教育 c)災害防止のための広報計画。  
約一年前、全国局は大統領所属からはずされ、内務省内に設置されました。その時に私は  
政府の仕事をするのを止めることにし、民間コンサルタントとして仕事をすることを決めま  
した。 (ボニラ)
- ・研修のときは、コロンビアの保険会社Colsegurosの、特別危険部長をしていました。1992年  
同社の再保険部に移り、1994年1月に、保険部長としてCHUBB に加わりました。  
(サラマンカ)
- ・幾つかの火山及び地滑りの、地方及び地区緊急委員会に配属。 (マリン)
- ・帰国してから今まで、コースの内容についての説明及びコメントを、何度も求められました  
副知事、市長、他の高官とも、防災と安全の改善のために、様々なレベルで新政策の推進の  
ために話し合いをしました。

地元では、バルミラ市では市議会が市長の支持の下に災害防止行政局を設立したという成果を報告できることを嬉しく思います。かなりの予算を持ち、我々はスタッフや支援部隊の訓練に関与しています。

協会は、新研修資料を作成し、予算次第で導入できるようになっています。(ダザ)

最も重要な結果は、ANTIOQUIA 赤十字で我々が、25の都市に、天災あるいは人災の結果としての危険によりよく対応できる、ANTIOQUIA 部の25のボランティアグループを組織したことです。

赤十字のこの委員会は、行政活動、救助や援助、地元での防止の仕事などを担当するボランティアのために作られています。また生命や、戦争における国民を尊重するキャンペーンの実現化。

国民は、道路、橋梁、家屋、学校、コミュニティーの共同建築を破壊する、地震、洪水、火災、交通事故、火山などの危険に影響されます。(モントヤ)

災害防止行政のセミナー後、日本から帰国してから、私はCali市の上下水道システムの弱点の評価に積極的に関与してきました。またエネルギーと、通信システムで同様の仕事が行なわれるように、支援してきました。1993年6月、上下水道システムの弱点評価及び削減のためにのみ働く課の設立に参加しました。現在、EMCALIにおける上下水道システムの弱点の削減プログラムのコーディネータです。(コルテス)

## 2. この研修コースの評価

2-1. 帰国後、このコースはあなたの現在の職業にとって有用でしたか？ あなたが有用だったと思う項目をあげて下さい。

・仕事の分野を広範囲に紹介され、また、他の場所での経験が分析され考慮に入れられていたため、コースはとても役に立ちました。

都会での災害/災害管理の統合 (ウリベ)

・とても有用だったと思います。理由は、

a) 災害削減と被災後の再建の分野で、日本で何が行なわれているか、その全体像が示されました。

b) 世界中からの他の参加者と、考えや経験を交換するための非常に重要な集まりとなりました。(ボニラ)

・1. 保険プログラムで異常災害危険を保証すること。

2. 自然災害とその結果を理解すること。

3. 自然災害に備え、適切に対応すること。

(サラマンカ)

・はい。- 火山による危機。

(マリソ)

・はい。- 災害防止のための通信システム/電力会社での災害対策/災害防止を支配する法規(基本法の研究)/行政の責任/対策の促進(国分寺)

(ダザ)

・もちろん、政府、役人、民間組織が自己の資源を傾けて、災害に巻き込まれている人々に対してより役立つように機能することにより、利益の伝達が可能となります。(モントヤ)

・もちろん、コースは私の現在の仕事にとって有用でした。日本でのセミナーに参加した時、私は私の市の下水道システムの維持の役割を与えられていました。現在私は専ら、Caliの上下水道システムの災害削減プログラムの仕事を与えられています。

最も有用なトピックスは：都市の災害防止/都市及び地方計画における災害管理/災害防止演習

(コルテス)

2-2. 逆に、有用でなかったトピックスは何ですか？ 理由も記して下さい。

・すべてのトピックスが有用でした。しかし、自然災害には様々なものがあるので、各参加者の関心によって、トピックスの重要性が変わります。(ウリベ)

・すべての問題が興味深いものでしたが、扱ったトピックスをより深く追求する時間があればよいのにといつも思っていました。例えば：

火災防止/住宅建設技術/避難所及び避難民の管理/学校での災害防止プログラム

(ボニラ)

・なし。膨大な投資が必要なのでコロンビアでは適用できない対策もありました。しかし災害防止のためになにができるのかを知るのには有用です。(サラマンカ)

・なし。(マリソ)

・すべてのトピックスが有用でした。その利用可能性は、各国での運営上の可能性に依存することです。(ダザ)

・なし。(モントヤ)

・火山災害対策-コロンビアには幾つかの活火山がありますが、私が働いている地域にはないからです。(コルテス)

2-3. 経験者の立場から見て、この研修コースの目的、内容、応募者、参加者の人数、期間について意見を述べて下さい。

2-3-1. 目的:

- ・ 自然災害の管理が持つべき広い視野を与えるという目的は明確です。(ウリベ)
- ・ 目的は、日本で行われているすべての災害防止及び被災後の再建技術の全体像を提供することでした。コースの幾つかの側面については、理解を深める時間が不足していたと思います。たとえば、日本南部の桜島火山を見に行った時、噴火の際に学校がどのように統制されるのか、緊急時に対処するために市の輸送システムがどのような用意をしているのかなどを、更に詳しく知りたかったと思います。(ボニラ)
- ・ 自然災害を理解し、判断し、災害を避け、防止し、対応するためのあらゆる手段を研究する。(サラマンカ)
- ・ 参加者の国の自然災害に関する一般的知識の取得。(マリン)
- ・ 最初に述べたように、完全に有用であり、コースにより達成されたと思います。(ダザ)
- ・ この研修は、日本がJICA計画を通して諸国に与えている大きな援助のひとつであり、組織やほかの国の災害の対処を見る機会となります。(モントヤ)
- ・ 日本における災害防止政策の発展についての簡潔な知識を得て、自国での同じ意味での仕事に対する動機づけを持つことは、十分なされたと思います。(コルテス)

2-3-2. 応募者:

- ・ 参加者の出身組織が多様なので、コースは学際的側面を持ちますが、これは重要なことです。しかし、英語の能力はもっと要求されるべきです。(ウリベ)
- ・ コースの参加者は、世界の様々な地域から来た、非常に興味深い人々でした。しかし何人かは英語が良くわからず、困難の元となっていました。(ボニラ)
- ・ 工学士の資格のある科学者。英語が堪能。(サラマンカ)
- ・ 好きな人たちでした。(マリン)
- ・ 内容や目標をよりよく理解するには、コースの前に、英語の能力を要求しておくべきです。(ダザ)
- ・ 応募者は政府、消防隊、市民警察、赤十字、そのほかの組織に属しています。彼らの知識や経験にとって大いに役立ち、自分の問題をいかに処理するか、考え方がわかったはずですが。(モントヤ)
- ・ 無回答: コルテス

2-3-3. 参加者の人数:

- ・ ちょうど良い。(ウリベ)
- ・ 適切。(ボニラ)
- ・ 10人 (サラマンカ)
- ・ 12人 (適切) (マリン)
- ・ まずまず。(ダザ)
- ・ ちょうどよかった。災害時の仕事に関する新しい方法を共有し、参加者間の交流ができますから。(モントヤ)
- ・ 良かったと思います。(コルテス)

2-3-4. 期間:

- ・ 上記の目的のためには、結構です。(ウリベ)
- ・ コースは、問題をより深く扱い、特定の興味を持つ参加者に機会を提供するため、もう少し、多分、あと2週間ほど長くできたと思います。(ボニラ)
- ・ 12週間 (サラマンカ)
- ・ 目的を達成するのに十分。(マリン)
- ・ 伝統文化(歌舞伎)、旧跡、東北地方、日本文化の起源などを経験するために、あと2週間。(ダザ)
- ・ いくつかの訪問は早すぎたと思います。技術や運営を評価する時間が十分にありませんでした。(モントヤ)
- ・ やや短かったと思います。もう1ヶ月長くして、“ライフ・ライン災害防止”とあったトピックスを含めたらと思います。(コルテス)

3. コースの妥当性

3-1. 研修を終えてから、研修で取得した知識及び技能を積極的に他の人に紹介する機会がありましたか?

- ・はい。コースの最も重要な問題は、自然災害の問題に関して視野を広くもつことです。したがって、その多様性の認識と、どの観点を導入することが、まさに必要とされる結論です。(ウリベ)
- ・はい。特に、a) コロンビアのすべての公立小学校に関わる、学校での災害防止プログラム、そして b) 広報のために、印刷又はビデオに収められた教育資料の構成に関する分野においてです。(ボニラ)
- ・はい。保険関係者に対する研修を2回しました。(サラマンカ)
- ・研修から戻って以来、研修ばかりでなく人員交換政策に対するアドバイスに関しても取得した知識を紹介する機会がありました。バルミラの本部では、1月25日から3月22日までのASOBOMBEROS(Valle del Cauca)の研修のため、コミュニティーのため、有益な防止及び安全プログラムを開発しています。(ダザ)
- ・非常に貧相な方法でした。この種の組織は、政府の支援のもとにそのプログラムを実現するものです。しかし法律が変わり、我々の組織は財政的援助を受けていません。現在、すべての資金には優先順位がついていて、教育はあまり資金はもらえません。一方では、JICA・コロンビア間で実現した計画はすべて、Antioquia 部に関しては、保安上の問題から2年前に取り止めになりました。過去に研修を受けた我々のグループは、何も援助を受けていません。(モントヤ)
- ・私の会社や市で計画された災害防止のセミナーや集会で、説明をしました。参加者に日本で得た知識をいくつか広めました。(コルテス)

無回答：マリソ

- 3-2. 配置転換の方針は、日本での研修の効果を考慮したシステムになっていますか？  
参加した人が、その分野に無関係の部門に移される可能性がありますか？
- ・ a. そうではありません。
  - ・ b. 政府で働いていればそうです。政府が変われば人間も変えるのが、通常のやり方です。(ウリベ)
  - ・ その危険性が常にあります。しかし、選抜された人間が、この分野に関与し興味を持っていれば、どの部門に配置されようとも、この方法を続けるでしょう。災害防止及び削減は、民間及び政府の活動すべてに対して適用できる問題なのです。(ボニラ)
  - ・ 日本での研修の効果は、ある程度ではあるが配置転換の時に考慮されます。無関係な部局に替わる可能性もあります。(サラマンカ)
  - ・ 私の研究所では日本での研修は考慮され、無関係の分野に参加者が配置転換される可能性は少ないです。(マリソ)
  - ・ そう思います。日本での研修は大変評価されており、考慮されます。参加した人が無関係の分野に移される可能性はありません。研修コースに参加するための個人及び組織の努力が無駄になりますから。(ダザ)
  - ・ もちろん研修により、条件は良くなります。しかし人員の必要性から、ほかの分野に移らされる場合もあります。私自身の場合は、公式の代表、あるいはボランティアとして、20年近く、ANTIOQUIA 赤十字に関係してきました。特に災害にみまわれた時コミュニティーのために働いています。(モントヤ)
  - ・ 日本での研修後1年たって、私は上下水道システムの災害防止の分野に配置転換されました。(コルテス)

#### 4. 要望調査

- 4-1. あなたの分野で最大の問題は何ですか？  
その原因は何ですか？
- ・ 問題：自然災害を取り扱う人が少ない。  
原因：これは新しい訓練を必要とする分野です。最近になって、自然災害は削減できるもので、その問題は自然からというよりは社会から発生するということが認識されています。(ウリベ)
  - ・ 問題：「災害は忘れた頃にやって来る」という日本のことわざがあります。しかし災害防止の重要性は、常に強調しなければなりません。政府が変わり、人々は災害が起きたことを忘れます。しかしこの分野に関わる我々は、人々や政府に対して、この問題の重要性を常に訴えることが、取り組むべき義務なのです。  
原因：わが国では、災害は起こらない、あるいは、起こったとしても自分には関係な



いという一般的な感情があります。教育や広報活動で乗り越えなければならない、深い文化的な信念があるのです。この文化的な特徴が、災害防止に関心が欠如している原因となっています。災害防止に対する重要なプログラムが行われないとしたら、それは資金がないからではなく、意識が欠けているからだと思えます。(ボニラ)

- ・問題：保険会社として、自信が頻繁に起こる地域があること。
- 原因：コロンビアは、自信地域にあります。地震による損害を含む危険を保証する他、それが積み立てられ、さらに成長する能力が抑制されます。自信に対する積立金を計算し管理する方法論を開発しましたが、不確実性は残っています。(サラマンカ)
- ・問題：能力の取得。
- 原因：わが国には、火山学を学べる研究施設がありません。(マリン)
- ・問題：私の分野での最大の問題は、学問上でも技術上でもなく、運営の問題でもありません。東京での私のレポートでも述べましたが、支援の問題であり、具体的には、装置、教育資料、オフィスの施設、車などです。人的資源は準備ができており十分ですから。(ダザ)
- 原因：単純です。より多くの予算が必要であり、我々が開発する公共教育及び最新の研修を、特定の目的のためにより有効に割り当てることです。(ダザ)
- ・問題：最大の問題は、国土の広がりによるものです。道路の状況が悪いため、訪ねるのに10から12時間かかる小さな町がいくつかあります。ラジオや電話での伝達のもんだいもあります。他の都市では、救助や支援のための装置が極めて乏しく、救急車や消防車がありません。装置を主要都市から送っている間は、することがあまりありません。
- 原因：自然の原因。あるいは、教育が乏しいことが原因であることも多々あります。人々は、自然の資源を保存せず、川はゴミ、建築資材などであふれています。若者や子供の将来をよくするために、特に彼らを教育するための資金が必要です。(モントヤ)
- ・問題：私の市におけるライフ・ラインは、特に地震と洪水などの災害に対して、極めて脆弱です。この弱点を削減するために必要な資金は非常に多額です。
- 原因：長年にわたって、特にライフ・ラインにおいて、災害防止の文化がなかったからです。(コルテス)

## 5. 日本の理解

5-1. 日本の印象は、訪日後変わりましたか？ もし変わったのなら、どのように変わりましたか？

- ・はい。より好意的になりました。(ウリベ)
- ・美しい国です！日本人の勤労論理、謙虚な生活様式、食物の作り方、手芸品、そして共同社会の組織について、印象が深かったです。コースが終わるとすぐに出国したので、多くの場所を訪問する機会はありませんでしたが、週末には旅行をしました。新幹線を使って札幌に行き氷の祭典をみにいきました。氷に巨大な宮殿がきざまれました！お祝や楽しい食事と音楽の週末。また、朝5時の東京魚市場に行き、週末に家に私を招待してくれた漁師に会いました。彼ら夫婦は英語を話さないもので、2日間我々は身ぶりだけで会話をしました。しかしこれは2日間家庭に滞在するというすばらしい機会でした。(ボニラ)
- ・はい。プラスの方向に変わりました。人々の生活、自然条件、そして過去に日本を襲った事件を理解し、日本がなぜ、様々な分野で世界をリードしているかが分かりました。(サラマンカ)
- ・いいえ。(マリン)
- ・変わりません。私は日本人に対して、最高の印象と尊敬を持ってきました。短期間でしたが、日本を経験できたという特権に感謝したいと思います。当然のことですが、最初は非常にフォーマルで職業的でした。しかし、本を読んだり聞いたりしたことを直接見ることで、変化が起きました。個人的な経験は、ビデオ、良い映画、補助教材などで見ることに勝ります。イメージや印象が大きく変わりました。敬意を払うべきだが、ロマンチックでもあるイメージを持ちました。伝統全般を目の当たりに見ましたが、日本の都市の社会経済的発展、几帳面さや信頼性に対する尊敬も見なければなりません。日本の文化については本が100冊もかけます。(ダザ)
- ・いいえ。最高の印象をまだ持っています。
- 私は、日本で研修を受けた人たちの協会の会長をしていますが、当然のことながら私や彼らは、日本の人々と密接な関係を持っていたと思っています。(モントヤ)

- ・日本は、研修旅行以前に考えていたよりも、ずっと親密で友好的な国だとわかりました。私にとっての日本の思い出は、わすられない経験です。(コルテス)

5-2. 日本に滞在中、何に最も印象を受けましたか？

- ・人々の仕事に対する真剣さです。(ウリベ)
- ・多くの人がこれだけの狭い空間に住み、しかもよく秩序がたもたれていること。(サラマンカ)
- ・自然災害対策もすばらしい。(マリン)
- ・国の組織化。(マリン)
- ・人名に対する尊重です。日本政府が、1人の命を救うのに何百万円を使うことを、私は疑いません。自然に対する傾倒、それは植物、動物、水資源に対する尊敬を意味しています。(ダザ)
- ・日本人の習慣と尊敬。(ダザ)
- ・技術と組織。道路や通信の方法。(モントヤ)
- ・滞日中に最も印象を受けたのは、人々の伝統に対する敬意です。寺や城の保存や人間に対する尊敬です。(コルテス)
- 無回答：(ポニラ)

5-3. もし機会があれば、参加者として再び日本に来たいですか？

- ・はい。ほかの興味ある研修分野がたくさんありますから。(ウリベ)
- ・生態及び環境の日本版を学ぶために、また日本に来たいと思います。この機会に、この可能性についてお願いしたいと思います。(ポニラ)
- ・はい。すぐにでも。(サラマンカ)
- ・はい。(マリン)
- ・はい、本当に。最初の経験を完成させ補完する機会があればと思います。(ダザ)
- ・はい。研修のすべての場所により多くの時間をかけたいと思います。貴方たちが、研修のために多くの参加者を引き受けなければならないことはわかっていますから、JICAが私と同じ研修を受けた最新のグループが使った資料を送って頂くことが、大切なことだと思います。(モントヤ)
- ・もちろん、機会があれば参加者として日本に戻りたいと思います。いつか、この貴重な国に戻れることを、神に祈っています。(コルテス)

6. アフターケア・サービス

6-1. JICAはアフターケア・サービスとして、参加者に雑誌を配布し、過去の参加者の同窓会を支援してきました。他に何か希望がありますか？

- ・いいえ。(ウリベ)
- ・私を宛先の名簿に加えて下さい。また上記の質問 5-3での私の頼みを考えて下さい。(ポニラ)
- ・いいえ。(サラマンカ)
- ・個人的には、研修員、月刊T I C、テクノジャパン、又は Japan Economic Review を受け取ればと思います。(ダザ)
- ・はい。私の研修コース、災害防止における手法や技術に関連した英語の資料を受け取ることは重要だと思います。コロンビアのこの地区の災害救助に関する、調整及び方向に責任を持つ、Antioquia 部とMedellin市の官庁組織に属している、2つのレポートを同封します。(モントヤ)
- ・災害防止、特にライフ・ラインの分野で、日本でなし遂げられた活動に関する定期的な情報がほしいとおもいます。(コルテス)
- 無回答：マリン

アンケート  
評価－アフターケア調査  
(帰国研修員対象)  
メキシコ

このアンケートにご記入の上、JICAのオフィスにお送りください。 必要ならば別の紙に記入し、ここに添付して下さい。

あなたの氏名、コースの名称、参加した年、住所、電話番号（下に記入して下さい。）

\* MARCO J. ALBERTO RODRIGUEZ MARTINEZ

災害防止管理（1990）

（自）メキシコ合衆国メキシコシティ－C.P.03100 ベニト・ファレス、バレ・デル区  
レクレオ通り 77-302 電話：52(5)524-4268

（事）C.P.04510 大学都市外環状道路メキシコ国立自治大学災害防止研究所ビル"C"  
電話：52(5)622-3225/3226

\* NANCI SILVA DE GUTIERREZ

災害防止管理（1990）

（自）メキシコ合衆国メキシコシティ－ 06700 ローマ区タバスコ通り 313-204  
電話：207-25-99 Fax:207-25-99

（事）メキシコ合衆国メキシコシティ－ 06700 ローマ区タバスコ通り 313-204  
電話：207-25-99 Fax:207-25-99

\* RICARDO CICERO BETANCOURT

災害防止管理（1992）

（自）メキシコ合衆国ツラルネバントラ、ビベロス・デ・ラローマ区 No.6 中央公園  
通り 電話：397-29-48

（事）メキシコ合衆国メキシコシティ－、コヨーカン、サントドミンゴ区デルフィン  
マドリガル通り No.665 電話：606-40-23 Fax:606-16-08

\* HARRIS LEE SANCHEZ

救急医療技術者中級（1994）

（自）メキシコ合衆国メキシコシティ－ 03020 ナルベルト区カサグランデス通り  
5-501 電話：(5)530-3089

（事）メキシコ合衆国メキシコシティ－ 01000 サンアンヘル区レボルシオン通り  
1909-10 電話：(5)616-1413 Fax: (5)550-0292、  
(5)550-0549

(質問)

1. 現在の職業

1-1. あなたの現在の職業は何ですか？ あなたの責任を詳しく記入して下さい。

名前	地位・部門	組織の名称	組織のタイプ
RODRIGUEZ	コーディネーター 危険緩和および工業監視計画 ・私は災害防止に関する情報の調査、教育、公開などの学際的な活動を促進支援しております	メキシコ国立自治大学	非政府/教育
DE GUTIERREZ	建築家 ・現在私は自営の建築業（ビル責任管理者）を営んでおり、建築を強化し、安全性と安定性を高めるための助言と指導を行っております。本業務は政府の災害防止計画の一環として行われて居ます。	自営	非政府/自営
BETANCOURT	普及協力部長	国際災害防止センター	政府関係
SANCHEZ	通常理事会副議長および救急医療技術者(EMT's)の基礎研究部長	救急医療サービス専門家機関	非政府/自営

1-2. 帰国してから今までの経歴を記して下さい。

- ・1990-91 メキシコ国立自治大学エンジニアリング研究所学際的災害防止分野における調査員助手
- 1991-92 メキシコ国立自治大学市民保護研究所所長
- 1992 メキシコ国立自治大学危険緩和および工業監視計画のコーディネーター
- 1991 メキシコ合衆国支環境委員会(COPARMEX)の委員
- 1994 同環境委員会(COPARMEX)市民保護委員会のコーディネーター (ロドリゲス)
- ・日本を訪れた頃には、組織労働者安全局の社会保障機関という準政府組織において、病院の食事、看護、公立養老院、その他の領域の安全基準の作成、促進を行っていました。帰国してからは、国立地震対策緊急組織において市内で最も危険な場所（過去の地震で他よりも被害を受けた場所）に位置するビルの地質調査を行いました。
- 1993年から1994年には自営のD.R.O.（ビル管理責任者）として、市内全域のあらゆる種類のビルの安全条件と安定性を指導してきました。(グティエレス)
- ・やり遂げた仕事の評価や質が向上しました。賃金や、地位には変化がなかったものの、仕事の結果に信頼性と効率が増しました。(ベタンコート)
- ・帰国してから、約8か月間SOS 救助機関の研修部に引き続き勤務し、その後、救急サービスの知識、技術の学習と向上に関心を持つ全ての人々に研修を行う民営ボランティア組織、救急医療サービス専門機関に移りました。
- 私はそこで、メキシコ軍特殊部隊、メキシコ国立社会保障機関の職員、消防隊員、様々な大学、特にメキシコ国立自治大学の学生、メキシコの多くの都市の市民および当機関の職員など、いろいろな人々のグループに救助および応急手当の技術を教えました。(サンチェス)

2. この研修コースの評価

2-1. 帰国後、このコースはあなたの現在の職業にとって有用でしたか？ あなたが有用だったと思う項目をあげて下さい。

- ・この研修によって、日本がいかに災害問題に対処しているかに関して概観を得ることができたため、全てのテーマは有益でした。また、研修のおかげで、災害防止に関するプログラムやプロジェクトを開発することができました。(ロドリゲス)

- ・コースの一部は実際の業務活動に役立ちました。特に地震の予測、災害防止措置、天気予報および警告システムに関する部分が有益でした。(グティエレス)
- ・もちろん役に立ちました。特に災害防止のための人材と技術資源の管理、経営管理、公共施設、鉄道、ダムなどの災害対策などは有益でした。(ベタンコート)
- ・帰国してから、教えて頂いたほとんど全てのテーマが役に立ちました。特に、災害の防止と管理、基礎および上級の救助技術に関する研修や、日本人の経験に関する講義が特に有益でした。日本で学んだことの中で最も重要なことは、緊急事態における規律と協力に関する教えであったと思います。私はこれらの教えを研修で使い、大変良い結果を得ました。(サンチェス)

2-2. 逆に、有用でなかったトピックスは何ですか？ 理由も記して下さい。

- ・ありません。(ロドリゲス)
- ・役に立たなかったテーマは、火山災害、鉄道災害防止措置、港湾災害防止措置に関するものです。その理由は私の仕事上記分野に関わりを持たないためです。(グティエレス)
- ・全てのテーマは大変有益です。遅かれ早かれ、全てのテーマを利用する機会が訪れるでしょう。(ベタンコート)
- ・ほとんどのテーマは役に立ちましたが、できれば他のテーマについても学習し、もっと実地の訓練を積みたかったと思います。それから、運搬具による人命の救出、空気装置の使用、消火技術など、物資や資金の不足のために、実務や研修で使うことのないテーマがいくつかありました。(サンチェス)

2-3. 経験者の立場から見て、この研修コースの目的、内容、応募者、参加者の人数、期間について意見を述べて下さい。

2-3-1. 目的:

- ・私の目的は災害防止分野における日本の発展に関して学ぶことでした。(ロドリゲス)
- ・このコースの目的は、多くの人命を救い、損害を抑えてきた日本の災害防止および救助活動の分野に関する概観を与えることだと思います。(グティエレス)
- ・日本が有する知識や経験を参加者に伝え、参加者が自分の国で責任を果たすのを支援することです。(ベタンコート)
- ・各国の国民の関心を高める方法、資源管理を向上させる技術など、緊急災害技術に関して包括的かつ専門的な研修を行うこと。(サンチェス)

2-3-2. 応募者:

- ・応募者は常に災害分野で働いている者にすべきでしょう。(ロドリゲス)
- ・世界各国で、災害防止に従事している専門家または責任者。(ベタンコート)
- ・私の見解では、参加者の能力、知識、目的は人それぞれですが、コースが進むに従って、参加者の行動は調和し、良い結果をもたらすようになります。また、私は他の参加者と深く知り合い、他国の人々との生活を楽しむことができました。(サンチェス)

2-3-3. 参加者の人数:

- ・20~25人くらいが適切な参加人数であると思われます。(ロドリゲス)
- ・参加人数は最適でした。全参加者と知り合う機会が持てましたし、意見や経験を交換することもできました。(グティエレス)
- ・12人。(ベタンコート)
- ・最適な学習環境としては、1コースにつき8人がよいでしょう。(サンチェス)

2-3-4. 期間:

- ・災害防止管理の概観を与えるには1か月程度が適当と考えます。(ロドリゲス)
- ・期間は少し短かったように思います。おそらく、もう1週間あれば、参加者は各人に固有の問題や、教えられた情報をそれぞれの予算、行政政策などにかんじて適用できるかに関して、もっと突っ込んだ議論をすることができたでしょう。(グティエレス)
- ・1991年10月から2月までの6か月。(ベタンコート)
- ・実地訓練をより多く行い、そのほかの技術についてもっと詳細に学ぶには、3か月半くらいあった方がよいのではないかと思います。(サンチェス)

### 3. コースの妥当性

#### 3-1. 研修を終えてから、研修で取得した知識及び技能を積極的に他の人に紹介する機会がありましたか？

- ・大学で災害防止に関する講演、講義を行いました。また、日本の最新の災害防止データベースを作成する調査プロジェクトに参加しました。(ロドリゲス)
- ・メキシコに戻ってすぐに同僚に会議で話しました。残念ながら我々は、特に通信の分野で、日本が有する全ての最新の装置や技術を有していません。また子供や学校の先生に対して、火災や地震の際の災害防止対策について少し講義を行いました。(グティエレス)
- ・研修で得た知識のほとんどは実務に適用、編入しました。また帰国した時以来いくつかの研修コースや学習活動に参加したおよそ1,700人に、研修を行いました。(ベタンコート)
- ・帰国して以来、機関の内外で多くの人々に教えてきました。このことは、モラル上の義務であると考えています。(サンチェス)

#### 3-2. 配置転換の方針は、日本での研修の効果を考慮したシステムになっていますか？

参加した人が、その分野に無関係の部門に移される可能性がありますか？

- ・採用しています。なぜなら日本は災害防止政策およびこの分野の組織の発展に重要な経験を有しているためです。国立市民保護組織の重要な責任は、公的行政機関内で別個の課に変更されています。(ロドリゲス)
- ・私が以前働いていた機関では、専門分野に関係のない分野に移されることは良くありました。その反面、日本での研修の成果を考慮してくれる分野も数多くありました。(グティエレス)
- ・日本での専攻は大変評価され、専門分野にとどまらせて頂いています。専門家は数少ないため、そのようなことはあまりありません。(ベタンコート)
- ・人事政策は、上記のようなシステムを十分に採用しており、公正なものであると思います。メキシコでは民間医療機関からの救急サービスはプロフェッショナルとして正当に認識されていないために、他の部門に回されるおそれはかなりあります。また、職員の大半はボランティア(この言葉はプロでないことを意味しません。その上、多くの状況では、ボランティアの能力は給料をもらっている人達よりも優れています)であり、収入がないので、生計をたてるために他の仕事をしなければならぬのです。(サンチェス)

### 4. 要望調査

#### 4-1. あなたの分野で最大の問題は何ですか？

その原因は何ですか？

- ・問題：災害防止管理局にも、我々の国立市民保護組織にも、深い知識を有する人があまりいないことです。このことは、当分野の適切な発展を阻害しています。さらに、問題があるにも関わらず研究がなされていない災害局面があります。原因：学際的災害調査の発展に関する、適切な研修政策および支援が不十分なことです。(ロドリゲス)
- ・問題：熟練した技術を持つ人材の不足。少ない予算。原因：残念ながら、この分野には人材を育成するための優先的な努力が払われていないのです。この業務は1985年(大地震の後)に始まりましたが、今では忘れられてしまったらしく、何の対策も立てられていない状況です。(グティエレス)
- ・問題：専門技術を有する人材普及および研修の効果に関する評価手法の実現 助手の頻繁な人事異動原因：研修および普及に関する専門技術の発展の遅れ 資金の不足(ベタンコート)
- ・問題：物資と設備の不足原因：資金の不足(サンチェス)

## 5. 日本の理解

5-1. 日本の印象は、訪日後変わりましたか？ もし変わったのなら、どのように変わりましたか？

- ・私は日本の生活、文化、国民のことを知りませんでしたでしたが、訪れてみて、この国に、特に日本人の親切さに強い印象を受けました。(ロドリゲス)
- ・大幅に変わりました。日本に来る前にも日本の建築(古代建築)や伝統的な着物や宗教、食事、先端技術などについては知っていましたが、実際に来てみると、日本があらゆる分野で進んでいることに驚きました、日本はその伝統を維持しているにも関わらず、ほかの数多くのいわゆる先進国よりも現代的でした。(グティエレス)
- ・良い方向に変わりました。大変素晴らしい経験でした。(ベタンコート)
- ・はい、変わりました。今では、日本国民のことをよりよく理解しています。さらに、日本人の勤勉さ、進歩性、および他国の人々をもてなす心遣いにはかんしんしました。(サンチェス)

5-2. 日本に滞在中、何に最も印象を受けましたか？

- ・国民がよりよい国をつくるために、献身的に働いていることです。(ロドリゲス)
- ・先進の建築技術  
道路の清潔さ  
国民の礼儀正しさ  
規律と秩序 (グティエレス)
- ・日本人の個人および集団の振る舞い、仕事に対する態度、清潔と秩序、習慣と価値観、都市の発展。(ベタンコート)
- ・日本人の完全性への努力、あらゆることを実行し協力する能力、このコースを設立した誠意および、私が出会う機会を持った人々や機関の能力、誠実さ、プロ意識に強い印象を受けました。(サンチェス)

5-3. もし機会があれば、参加者として再び日本に来たいですか？

- ・是非、訪れたいと思います。(ロドリゲス)
- ・日本をもう一度訪れて、火災防止と建築基準についてさらに学びたいと思っています。メキシコの国民にはほとんど情報が与えられていないので、私は市民に災害防止、救助、応急手当に関する情報を与える小さな本を書きたいと思っています。(グティエレス)
- ・もちろん、訪れたいと思います。(ベタンコート)
- ・もちろん、訪れたいと思います。(サンチェス)

## 6. アフターケア・サービス

6-1. JICAはアフターケア・サービスとして、参加者に雑誌を配布し、過去の参加者の同窓会を支援してきました。他に何か希望がありますか？

- ・雑誌「Look of Japan」が定期的に送られてきません。(ロドリゲス)
- ・他の国からの元参加者、特に南米からの参加者と連絡を取り、情報を交換したいと考えています。(グティエレス)
- ・可能であれば、元参加者が研修を終えた後も、さらに経験を積む機械を与えて頂きたいと思っています。(ベタンコート)
- ・帰国して以来このアンケートが初めて受けた通信であり、雑誌やアフターケアサービスはまだ受け取っていません。テーマに関連するもっと多くのコース、並びに、元参加者や先生が参加し、日本メキシコ間で学識者の交換をする機会があればと思います。当機関 私は熟練した人材を非常に必要としている上に、元参加者にとって研修を行うこと、および救助教育の需要を満たすことは困難な仕事であるため、もっと多くの学識者が必要なのです。(サンチェス)











JICA